

kanagawa ARTS PRESS

神奈川芸術プレス Vol.132

10|11
2016



©Felix Broede

CREATOR'S VOICE 151
イザベル・ファウスト & ケラス & メルニコフ・トリオ

一柳 慧にきく 二つのプロデュース公演
塩田千春展「鍵のかかった部屋」×音楽プログラム
カメラータ・ザルツブルク/クレメンス・ハーゲン & 河村尚子

隔月刊：奇数月15日発行

私とケラス、メルニコフとのトリオでは、あらゆる時代、あらゆる作曲家のスタイルやその時代性を見極めていきたいと思っています。

イザベル・ファウスト(ヴァイオリン) &
ジャン＝ギアン・ケラス(チェロ) &
アレクサンドル・メルニコフ(ピアノ)

神奈川県立音楽堂

イザベル・ファウスト

ヴァイオリニスト



当代きつてのヴァイオリニスト、イザベル・ファウストが、2017年2月、4年ぶりに神奈川県立音楽堂で演奏します。チェロのジャン＝ギアン・ケラスとピアノのアレクサンドル・メルニコフという屈指のアーティストと組んだ、今、クラシック音楽界で大注目のピアノ・トリオでの登場です。

ケラス、メルニコフとの出会い

——ケラス、メルニコフとトリオを組んだきっかけとは？

ジャン＝ギアンとは25年くらい前からの知り合いです。アレクサンドルとは15年ほど前からでしょうか。室内楽フェスティバルなどで二人に会うことが何度もあり、いろいろな機会ですれぞれと共演していました。

ドヴォルザークの「ピアノ三重奏曲第3番へ短調」を録音する企画が出た時に、二人に声をかけました。そしてドヴォル

ザークの「ヴァイオリン協奏曲」とカッパリングしたCDとしてリリースしました。とても楽しくレコーディングを進めることができたので、ドヴォルザークの他の作品の録音や、また別のプロジェクトでもトリオを組んでいくことにしました。こうして、ベートーヴェンやシューマンのCDもリリースし、また、コンサートも定期的に行なっています。

さまざまな作曲家の作品をこなす柔軟性と適応性を兼ね備えている音楽家と、それぞれの強い個性を保ちながら、互いに共有できる演奏解釈を見出していくことができる。このトリオを組むことができ、とてもフッキーだと思っています。私たち3人は、あらゆる時代、あらゆる作曲家のスタイルやその時代性を見極めていきたいと思っています。それが、私たちの活動の基調なんです。

——ファウストさんは、室内楽について、ケルビーニ四重奏団の創設者でもあるヴァイオリニスト、クリストフ・ポッペ



イザベル・ファウスト Isabelle Faust
並外れたテクニックと洗練された音楽性で、古楽からモダンまであらゆる演奏スタイルをこなし、目覚ましい活躍を続けている。これまでに、ベルリン・フィルをはじめロンドン・フィル、バイエルン放響、ミュンヘン・フィルなど世界トップ・オーケストラと定期的に共演。指揮者ではアバド、ヤンソンス、ハイティンク、ブリュッヘン等と共演。室内楽奏者としても数々の音楽祭に出演し、メルニコフ、ケラスのほかフォークト、シュタイナー、テツラス、T.ツィンマーマン、ベルガメンシコフ、イッサーリス、C.ハーゲンらとも共演をしている。使用楽器は、ストラディヴァリウス「スリーピング・ビューティ」(1704年製)

©Felix Broede



左からケラス、ファウスト、メルニコフ



©Felix Broede

ンから多くを学んだそうですね。

ポツペン先生は、私が音楽をつくっていく上で、常に自分自身で考え、独自の判断と理論付けをしていくように促してくれました。これが、彼から学んだことのなかで、私が最も大切にしていることです。

シューマン・プロジェクトについて

——2014年からケラス、メルニコフとシューマンの三つの「ピアノ三重奏曲」を録音し、その各1曲とシューマンのヴァイオリン、チェロ、ピアノそれぞれの協奏曲とをカップリングした3枚のCDをリリースされました。今、大きな話題になっていますね。この「シューマン・プロジェクト」の構想は、どのようにして生まれたのでしょうか。

このアイデアは、シューマンの三つの「ピアノ三重奏曲」からの1曲をプログラムに組んだツアーをしていた時に出てきたものです。私たち3人もシューマンの音楽をとても愛していることが分かっていたのです。それで、「ハルモニア・ムンディ」レーベルに企画を提案し、また協奏曲のオーケストラとして、フライブルク・バロック・オーケストラがすぐに思い浮かびました。

——「シューマン・プロジェクト」では、弦楽器には古楽演奏で使われるガット(羊腸弦)を用い、モダン・ピアノの前身であるフォルテピアノで演奏していますね。

シューマンが作曲にあたって実際に想定し、当時よく耳にしていたものと同様の同じ楽器で演奏するほうがより良いだろう。そう私たちは考えたのです。

——共演のフライブルク・バロック・オーケストラは、古楽器演奏の名手集団として、日本でも高い人気があります。

パプロ・ヘラシックサド指揮のフライブルク・バロック・オーケストラの演奏は、完璧でした。彼らは先入観を持たず、安易な妥協なしに熱意を持って、私たちが息がびったりと合った演奏をしてくれました。

——1810年に生まれ56年に亡くなったシューマンの時代は、まさにフォルテピアノが現代のモダン・ピアノに移り変わったといった時期だったわけですね。弦楽器のスチール弦が今日のように一般的になったのは、20世紀半ばだったわけですね。実際のところガット弦とフォルテピアノによってもたらされるシューマン作品の魅力は何かでしょうか？

手短にお伝えするのは難しいのですが……。古楽器は、モダン楽器よりも音色

音楽堂ヴィルトゥオーゾ・シリーズ17 イザベル・ファウスト(ヴァイオリン) & ジャン＝ギアン・ケラス(チェロ) & アレクサンドル・メルニコフ(ピアノ)

2017年2月26日(日) 15:00 神奈川県立音楽堂

シューマン:ピアノ三重奏曲第3番 短調 作品110

エリオット・カーター:エビグラム(2012)

シューベルト:ピアノ三重奏曲第1番 変ロ長調 作品99 D898

全席指定 一般7000円 シルバー(65歳以上)6500円 学生(24歳以下)4000円

※ヴィルトゥオーゾ・シリーズ3公演セット券は、予定枚数に達したため、取扱いを終了しました。

が豊かで、透明感もありますので、アーティキュレーションがより明瞭になります。フォルテピアノの変化に富んだ響きだと、ピアノは常に弱音で演奏し続けるという必要がないので、弦楽器とピアノとの自然なバランスを探っていくことができます。これはほんとうに楽しいですよ。でもこうしたことは、古楽器の数多くの魅力の一部にすぎません。

私は、古楽器のガット弦や弓、フォルテピアノなど歴史的ピアノの響きが大好きなんです。そして皆さんにも古楽器の格別な美しさを聴き取っていただきたいと思っています。至上の美しさを持ち、音楽ならではの恵みをもたらすもの、つまり楽曲の構造とそのあらゆるディテールにある豊かさが、古楽器演奏を通じてより理解しやすくなればと思っております。

実際、シューマンを古楽器で演奏することで、多くのことが見えてきます。ただ古楽演奏は多くのことを私たちに明らかにしてくれますが、最も重要なことは、楽譜に基づいた演奏をするということだと思います。

県立音楽堂では、現代の作品「エビグラム」(2012)もあるのも、モダン・ピアノで演奏し、ガット弦は使わないでしゅ。

公演プログラムについて

—— 来年2月のプログラムでは、シューマンの「ピアノ三重奏曲第3番 短調」のほか、カーター「エビグラム」、シューベルト「ピアノ三重奏曲第1番 変ロ長調」が取り上げられます。

シューベルトの「ピアノ三重奏曲」は、以前から私たちのレパートリーにしてみました。昨年、「変ロ長調(第1番)」を取り上げましたが、今年も「変ロ長調(第2番)」に取り組んでいます。2曲とも大作で難曲です。シューベルトの音楽は、私を知る作曲家のなかで最も天国的であり、最も難しい音楽ですね。

私たちはまだシューベルトをモダン・ピアノでしか演奏してきたことがないんですよ。でも、近いうちにこの2曲は古楽器で演奏することになるだろうと思います。

「エビグラム」は、アメリカの作曲家エリオット・カーター(1908~2012)が最後に完成した、まさに傑作というべき作品です。

この作品を委嘱したピアノのピエール・ロラン・エマールとジャン＝ギアンとで演奏したことがあるのですが、ピエール・ロランは、カーター作品を十全に理解していて、とても助かりました。「エビグラ

ム」は、音楽的に理路整然として、ある意味とても古典的で明快、分かりづらいう表現がまったくくない作品です。

神奈川県立音楽堂でのコンサートのために、インスピレーションを与えてくれる、とてもエキサイティングなプログラムを作り込みました。これらの素晴らしい音楽を、ぜひ皆さんとともに分かち合いたいと思っています。

my hall myself

私にとつての神奈川県立音楽堂

日本のコンサートホールはどれもとても素晴らしいです。そのなかでも神奈川県立音楽堂は、とっても美しいホールですね！ 毎回、ここで演奏できることが楽しいですし、私のヴァイオリンも楽しんでるよりに思います。神奈川県立音楽堂のみなさんのもとに帰りたくてたまりません。

取材・文：川西真理

WEB
+α!

WEBでも「プレス」が読める!
www.artspress.jp

WEB版だけのプラスα
コンテンツもいっぱい!

動画やインタビュー続編は…

このマークを
チェック!

WEB
+α!



セッポ・キマネン



一柳 慧

©Koh Okabe

一柳 慧プロデュースによる二つのプログラム

セッポ・キマネン チェロ・リサイタル

白夜の国・フィンランドの至芸

神奈川県民ホール

Music with and without the key

KAAT神奈川芸術劇場

音楽によって時代を解きほぐす
音楽を通して文化を前進させる

「音楽によって時代を解きほぐす」。そう語る一柳慧には、1960年代から創作の第一線に立ってきた作曲家ならではの時代を捉える強い眼差しがある。その眼差しは、自身の創作にとどまらず、神奈川芸術文化財団芸術総監督として、国や世代を越えて多くの才能を見出すことにも向けられてきた。

今秋、一柳が見出した音楽家に出会う二つの企画が、神奈川県民ホールとKAAT神奈川芸術劇場で開催される。その内容について一柳から話を聞いた。県民ホール・小ホールでは、フィンランドのチェリスト、セッポ・キマネンが、若手実力派ピアニスト、マルコ・ヒルボと来日し、リサイタルを開く。

キマネンは、フィンランド放送響の元首席チェロ奏者で、北欧を代表するシベリウス・カルテットや館野ピアノ・トリオのメンバーとして活躍、さらにフィンランド最大の音楽祭「クフモ室内音楽祭」の創設者として同音楽祭芸術監督を長く務めた後、駐日フィンランド大使館の文化参事官を務めたこともあるフィンランドきってのアクティブな音楽家だ。

「古典と現代を交えたプログラムによって、相乗効果が生まれ、音楽の未来につながる視点が生まれてくる」という



一柳 慧プロデュース

セツポ・キマネン チェロ・リサイタル

白夜の国・フィンランドの至芸

2016年10月29日(土) 15:00 神奈川県民ホール(小ホール)

出演:セツポ・キマネン(チェロ)、マルコ・ヒルポ(ピアノ)

シューマン:幻想小曲集 作品73

コッコネン:ソナタ

フォーレ:エレジー 作品24

リンドベルイ:ジュビリーズから三つの楽章

一柳 慧:独奏チェロのための「プレリユード」

シベリウス:四つの小品 作品78より II.ロマンス III.レリジオーソ

ブラームス:ソナタ第2番 へ長調 作品99

全席指定 一般4000円 学生(24歳以下)2000円

シンポジウム(実演付き)

一日・フィンランドの音楽事情と展望

10月28日(金) 19:00 神奈川県民ホール(小ホール)

登壇者:一柳 慧、セツポ・キマネン、川島素晴(作曲家)、
ベルットウ・ポロネン(作曲家)

司会:柴辻純子(音楽学・音楽評論)

実演:セツポ・キマネン、神田佳子(打楽器)を予定

全席自由 500円(10/29公演のチケット提示で無料)

一柳 慧プロデュース

Music with and without the key

2016年10月9日(日) 19:00 / 20:30

KAAT神奈川芸術劇場(中スタジオ)

詳細はP9の公演情報をご参照下さい。



マルコ・ヒルポ

一柳の思いに添えてキマネンは、「非常にバランスの取れたプログラム」(一柳)を組んでくれた。

ブラームス円熟期の大曲「チェロ・ソナタ第2番」と、シューマンが創作の頂点にあつた1849年作曲の「幻想小曲集」というドイツ・ロマン派の香り高い2作品フォーレ「エレジー」とフィンランド音楽を代表するシベリウスとコッコネンの詩情豊かな作品。現代音楽から、一柳が日本チェロ界を代表する堤剛の70歳のお祝いに作曲した「プレリユード」と、フィンランド出身で国際的に活躍するリンドベルイが作曲家ブルーゼスの80歳を記念し

て作曲した「ジュビリーズ」(ピアノ独奏)というそれぞれが敬愛する音楽家に捧げられた2作品も盛り込まれている。

リサイタル前日には、「文化」という大きな視点をもつキマネンと一柳によるシンポジウム「日本・フィンランドの音楽事情と展望」も開催。二人が囑望する日本とフィンランドの作曲家、川島素晴とベルットウ・ポロネンも登壇し、語り合う。この二人の作品の演奏も交える充実した内容だ。

「優れた演奏家と音楽文化を新たに作っていくには、閉塞感を克服して社会を前に進められる」。この一柳のヴィジョンを表現する場となるのが、KAATでの公演。



一柳 慧(2016年7月 東京・渋谷にて)

塩田千春展「鍵のかかった部屋」の会場
で、一柳の「弦楽四重奏曲第3番『インナー・ランドスケープ』」と「ピアノ協奏曲『ジャズ』2台ピアノ編曲版が演奏される。

『ジャズ』は、初演以来ジャズ・ピアニスト山下洋輔のソロで演奏されてきたが、今回は中川俊郎と中川賢一というそれぞれ作曲家(俊郎)、指揮者(賢一)でもある現代音楽界きっての名手二人により、同作品に新たな光があてられる。

『インナー・ランドスケープ』では、チェロの多井智紀と邦楽囃子笛方の石渡大介がヴァイオリン、サクソフォンの大石将紀がヴィオラと、本来とは別ジャンル、別の楽器の演奏家によって弦楽四重奏が生まれ、奏者は時に本来の自分の楽器に持ち替えて演奏を進めるといふ大胆な企てが行われる。楽譜を読み込み作品を十分に捉えた気鋭音楽家たちが臨む予測不能、スリリングな音楽の時を、現代アーティストの濃密な場で体感する刺激的な公演にご期待を。

今年を皮切りに、県民ホール、KAAT、県立音楽堂では、一柳慧と白井晃両芸術監督がプロデュースする多彩な企画を順次開催していく予定。本誌で逐次紹介するのでお見逃しなく。

取材・文…川西真理

塩田千春展「鍵のかかった部屋」 × 音楽プログラム

KAAT神奈川芸術劇場

身体全体で体感する時間と空間の輝き

塩田千春にとって初めての大規模個展は2007年、神奈川県民ホールギャラリーで開催された「沈黙から」。ここで発表された作品「焼けたピアノと椅子を黒い糸で編みこむ《沈黙から》、ベルリンで作家が集めた約1000枚の窓を組み上げた《光から》(2007)を含め、彼女はドレス、ベッド、靴や旅行鞆など、人が日常生活のなかで使用した痕跡と記憶を内包するマテリアルを作品に用いてきた。彼女が空間を構成し尽くし完成させた作品はどれも、言葉や文化的・歴史的背景、政治・社会状況の違いを越えて、世界各国の鑑賞者に感動を与え、日本、欧米、中東、オセアニア、そしてアジア諸国など、第56回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館(2015)の展示を含めて、これまで約200の展覧会で紹介された。

塩田が多く用いるインスタレーションという手法は、構成された展示空間を鑑賞者が身体全体で体感することのできる作品であるが、その表現が持つ強みを、塩田千春は「瞬間の哲学」と呼ぶ。今回、KAAT神奈川芸術劇場のスタジオに展示される《鍵のかかった部屋》(2016)は、大量の赤い糸、ヴェネチアでの展示の際に使用した鍵、そして五つの古い扉を組み合わせるインスタレーションである。

「掌の鍵」2015 ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 日本館、イタリア から

photo: Sunhi Mang



塩田千春展「鍵のかかった部屋」

2016年9月14日(水)~10月10日(月・祝) KAAT神奈川芸術劇場〈中スタジオ〉

会期中無休/展示時間 10:00~18:00 (入場は閉場の30分前まで)
一般900円 学生・65歳以上500円 高校生以下無料 (ほか団体割引等あり)
※チケットかながわでの取り扱いなし

インスタレーション×ダンス・音楽 -4プログラム- 音楽プログラム

●「2台のコントラバスと古い扉とアコーディオンと無数の鍵による組曲」

2016年10月8日(土) 19:00

*白井 晃が塩田千春作品にあわせてセレクトした「mama!milk」による公演
音楽:mama!milk

演奏:清水恒輔、守屋拓之(コントラバス)、生駒祐子(アコーディオン)
全席自由 前売3500円 当日4000円

●一柳 慧プロデュース「Music with and without the key」

10月9日(日) 19:00/20:30

曲目:一柳 慧:弦楽四重奏第3番「インナーランドスケープ」

出演:インナーランドスケープvariations (多井智紀、大石将紀、石渡大介) 他

一柳 慧:ピアノ協奏曲第4番「ジャズ」(2台ピアノ版)

出演:中川俊郎、中川賢一

全席自由 前売/当日3000円(両公演とも)

※10/8・9公演は「横浜JAZZ PROMENADE 2016」当日のバッジをお持ちの方先着20人まで無料
(満席になり次第締切)

ダンスプログラムについてはP15の公演情報をご参照ください。



「沈黙から」塩田千春展
2007 神奈川県民ホールギャラリー から

photo: Yasushi Nishimura

作品のなかで展開される一柳慧芸術総監督、白井晃芸術監督のプロデュースによる音楽プログラム2公演は、それぞれ時間と空間において輝きを放ちながら刺戟的な体感をわれわれに与えてくれるだろう。

文:中野仁詞
(キュレーター) 神奈川芸術文化財団
KAAT神奈川芸術劇場



WEB
+α!

「マハゴニー市の興亡」

2016年9月6日(火)~22日(木・祝)

KAAT神奈川芸術劇場〈ホール〉

作:ベルトルト・ブレヒト 作曲:クルト・ヴァイル 翻訳:酒寄進一

演出・上演台本・訳詞:白井 晃 音楽監督:スガダイロー 振付:Ruu

出演:山本耕史、マルシア、中尾ミエ、上條恒彦、古谷一行 他

本公演:S 8500円 A 7500円 B 5000円 3階席2000円

マハゴニー市民席(舞台上特設客席・自由席/入場整理番号付)5000円

U24(24歳以下)4250円 高校生以下1000円

シルバー(65歳以上)8000円

公式HP:www.mahagonny.jp/

「マハゴニー市の興亡」

KAAT神奈川芸術劇場

KAAT芸術監督・白井晃が、この秋、「三文オペラ」で有名なブレヒトとヴァイルのコンビが生んだ傑作「マハゴニー市の興亡」に挑みます。

指名手配中の3人のいわくつきたちが荒野に作った街・マハゴニーは、自由と歓楽を売りにして大いに繁栄する。しかしそこにやってきた人々の運命は拜金主義に翻弄され、死者が続出、ついには人々の暴動が起きて街は荒廃する……。

音楽劇として現代に蘇る、痛烈な皮肉に満ちたブレヒト&ヴァイルの最大の問
題作! どうぞご期待ください。



ハンスイェルク・シェレンベルガー
©K. Miura

FOCUS

〈オール・モーツァルト 名曲プログラム〉
ハンスイェルク・シェレンベルガー指揮
カメラータ・ザルツブルク
(*クラリネット独奏:アレクサンドロ・カルボナーレ)



2016年11月26日(土) 15:00
神奈川県立音楽堂

ディヴェルティメント第11番 二長調 K.251
クラリネット協奏曲 イ長調 K.622*
交響曲第40番 ト短調 K.550
全席指定 一般7000円
学生(24歳以下)4000円



カメラータ・ザルツブルク



アレクサンドロ・カルボナーレ

〈オール・モーツァルト 名曲プログラム〉
ハンスイェルク・シェレンベルガー指揮
カメラータ・ザルツブルク
(クラリネット独奏:アレクサンドロ・カルボナーレ)

神奈川県立音楽堂

「ザルツブルク音楽祭」の常連、
カメラータ・ザルツブルクが音楽堂へ初登場!

モーツァルトの生誕260年を迎える今年、生地オーストリア・ザルツブルクから「カメラータ・ザルツブルク」が来日します。カメラータ・ザルツブルクは、数多くのモーツァルト作品のレコーディングを行い、ザルツブルクで毎年1月に行われている「モーツァルト週間 (Mozart

woche)」や世界最大級の音楽祭「ザルツブルク音楽祭」への出演、ウィーン・コンツェルトハウスでの定期シリーズなどで常に耳のこえたクラシックファンを魅了し続けている室内オーケストラです。

今回の公演では、指揮者として元ベルリン・フィルのソロ・オーボエ奏者であるハンスイェルク・シェレンベルガーが出演し、「ディヴェルティメント第11番」では、指揮とオーボエの吹き振りが予定されています。2012年の来日公演でも名演を繰り広げたこの組み合わせは、作曲者が生きた時代の奏法を再現することをポリシーとしており、モーツァルト本来の響きをお楽しみいただけることでしょう。

そしてソリストには、シェレンベルガーの推薦でサンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団首席クラリネット奏者であり今注目目の管楽器奏者といわれるアレクサンドロ・カルボナーレが出演します。モーツァルトが晩年に書いたクラリネットのための唯一の協奏曲を、カルボナーレの華麗なテクニクから生み出される甘美な音色でお楽しみください。

木の温もり溢れる音楽堂の空間で、創設64年を迎える「カメラータ・ザルツブルク」の伝統の響きを聴いてみてはいかがでしょう。





河村尚子

©Hirofumi Isaka



クレメンス・ハーゲン

©武藤 章

音楽堂ニューイヤー・コンサート クレメンス・ハーゲン(チェロ) & 河村尚子(ピアノ) デュオ・リサイタル

神奈川県立音楽堂

深く心に刻まれる、
ふたりの名手によるリサイタル

神奈川県立音楽堂の2017年は、クレメンス・ハーゲンと河村尚子の実力派二人による演奏でしっとりと幕を開けます。河村尚子の熱望により2013年日本ツアーで実現したクレメンス・ハーゲンとの初共演は大成功をおさめ、2014年にはドイツでレコーディングも行われました。クレメンス・ハーゲンはウィーン・フィルやベルリン・フィルなど世界一流のオーケストラと共演を果たしている一方、世界中の演奏家から尊敬を集めているチェリストです。音楽堂初登場の河村尚子も今回の大注目株です。彼女もまた

ハーゲンを尊敬する演奏家の一人。5歳からドイツへ渡り、名実ともに日本を代表するピアニストとして活躍しています。深い音楽性から生まれる抒情的なピアノの色彩は、どこか日本人離れしたダイナミックさを感じさせます。

両者によって幾度となく演奏されているラフマニノフのチェロ・ソナタは、作曲家でもあり、優れたピアニストでもあったラフマニノフらしく、ピアノが大役を担っています。

もっとも旬な二人の名手によるリサイタルは、実に約3年ぶりの開催であり、今回の日本ツアーでこのデュオを聴けるのは、兵庫と神奈川県立音楽堂のみです。これは、聴き逃すわけにはいきません。繊細な響きを音楽堂でご堪能ください。

音楽堂ニューイヤー・コンサート クレメンス・ハーゲン(チェロ) & 河村尚子(ピアノ) デュオ・リサイタル

2017年1月9日(月・祝) 14:00
神奈川県立音楽堂

シューマン: 五つの民族風の小品集 作品102
ベートーヴェン: チェロ・ソナタ第2番ト短調 作品5-2
ラフマニノフ: チェロ・ソナタト短調 作品19
全席指定
一般6000円 シルバー(65歳以上)5500円
学生(24歳以下)3000円

神奈川県民ホール年末年越しスペシャル ファンタスティック・ガラコンサート2016

神奈川県民ホール

2016年12月29日(木) 15:00 (大ホール)
 ロッシーニ:「セビリアの理髪師」序曲
 モーツァルト:「魔笛」より夜の女王のARIA
 「ドン・ジョヴァンニ」より シャンパンの歌
 ハイドン:トランペット協奏曲 変ホ長調より第1楽章
 バレエ「エスメラルダ」より パ・ド・ドゥ 他
 出演:松尾葉子(指揮) 宮本益光(司会/バトン) 高橋維(ソプラノ) 城宏憲(テノール)
 上野水香・柄本 弾(東京バレエ団)
 守岡未央(トランペット) 石田泰尚(ヴァイオリン)
 神奈川フィルハーモニー管弦楽団
 全席指定 S 7000円 Sペア13000円 A 5000円
 B 4000円 C 3000円 学生(24歳以下) 2000円



楽しく華やかな音楽で一年を締めくく
 り、幸せな気持ちで新年を迎える、神奈
 川県民ホール恒例の「ファンタスティッ
 ク・ガラコンサート」。日本を代表する
 音楽家、バレエダンサーが一堂に会し、
 贅沢なひとときをお贈りします。歌手陣
 は司会でもおなじみのバリトン・宮本益
 光をはじめ、近年の躍進が目覚ましいソプ
 ラノの高橋維とテノールの城宏憲、トラ
 ンペットの新鋭・守岡未央(城宏憲と守
 岡未央とともに2015年日本音楽コン
 クール第1位)、バレエは2008年か
 ら出演する上野水香と前回に続いての出



城 宏憲



高橋 維



宮本益光



松尾葉子



石田泰尚
©井村重人



守岡未央



柄本 弾
©Nobuhiko Higuchi



上野水香



昨年のガラコンサートより

©Kiyokori Hasegawa

演となる柄本弾。東京バレエ団を代表す
 るふたりのプリンシパルが登場。指揮は
 2006年の初回からおなじみの松尾葉
 子、オーケストラは地元・神奈川フィル
 コンサートマスターの石田泰尚にも注目
 です。
 心躍る音楽と華やかなバレエで、希望に
 満ちた新しい年をお迎えください。



県民ホール共同制作オペラ「魔笛」 鑑賞券付宿泊プラン

神奈川県民ホール
X
ホテル・ニューグランド

神奈川県民ホール恒例の共同制作オペラ
 でも「魔笛」を上演(裏表紙の広告参照)。
 こちらではオペラ鑑賞券と宿泊が一緒に
 なった特別プランを申し上げます。
 日本を代表するヨコハマのクラシックホ
 テルでゆったりとオペラの余韻にひたつ
 てください！

2017年3月18日(土)・19日(日)
 各日14:00 (大ホール)
 宿泊プラン発売期間:9/17(土)
 ~10/8(土) 売切れ次第終了
 TEL.045-681-1841(代表)
 (宿泊予約10:00~19:00)
www.hotel-newgrand.co.jp/stay/



プラハ国立歌劇場 モーツァルト「魔笛」

神奈川県民ホール

グスタフ・マラーやオットー・クレンペ
 ラーといった名だたる名匠が指揮台に立つ
 た芸術の都、プラハが誇る伝統の歌劇場
 プラハ国立歌劇場がこの秋来日。プラハは
 「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」交
 響曲第38番」等で大成功を収めたモーツァ
 ルトと相思相愛の地。モーツァルト演奏に
 強いこだわりを持つプラハを代表するオペ
 ラハウスによる、親しみやすくも謎めいた
 傑作オペラ「魔笛」をお楽しみください。

2016年10月15日(土) 16:30
 (大ホール)
 マルティナ・マサリコヴァ
 (夜の女王)/リハルド・ハイ
 ン(指揮)/プラハ国立歌劇
 場管弦楽団 他
 全席指定
 S 17000円 A 14000円
 B 11000円 C 8000円
 神奈川芸術協会 045-453-5080



photo: Wiener Staatsoper/Michael Poen

ウィーン国立歌劇場「フィガロの結婚」

神奈川県民ホール



エレオノーラ・プラット



イルデブランド・ダルカンジェロ



リッカルド・ムーティ
©www.riccardomuti-com
Silvia Lelli



マルガリータ・グリシユコヴァ
photo: unbezeichnet



ローザ・フェオーラ
photo: Sergio Vitale



アレックスandro・ロンゴ

2016年11月10日(木)・13日(日)・15日(火)〈大ホール〉
出演:リッカルド・ムーティ(指揮)
ウィーン国立歌劇場管弦楽団
イルデブランド・ダルカンジェロ(アルマヴィーヴァ伯爵)
エレオノーラ・プラット(伯爵夫人)
アレックスandro・ロンゴ(フィガロ)
ローザ・フェオーラ(スザンナ)
マルガリータ・グリシユコヴァ(ケルビーノ) 他
全席指定 S 65000円 A 60000円 B 54000円
C 49000円 D 33000円
NBS公益財団法人日本舞台芸術振興会 03-3791-8888
(平日10:00~18:00 土曜10:00~13:00)
www.wien2016.jp

「オペラの殿堂」ウィーン国立歌劇場が贈る、世界中で最も愛されるモーツァルトのオペラ「フィガロの結婚」が神奈川県民ホールにやってきました。指揮は巨匠リッカルド・ムーティ、そしてジャン・ピエール・ポネルの不朽の名演出版とくれば、オペラファンなら見逃せません！ ムーティはこの舞台のために、選りすぐりの今勢いのあるイタリア人歌手たちを集めました。アルマヴィーヴァ伯爵役に2015年の英国ロイヤル・オペラ日本公演で強く存在感を印象つけたダルカンジェロ、ケルビーノ役には2012年のウィーン国立劇場来日公演に引き続きグリシユコヴァ、そつそつたる顔ぶれ。新たな風を感じる上演に期待十分です。

第65回神奈川文化賞・スポーツ賞 贈呈式 無料ご招待！

神奈川県民ホール



毎年、文化の日に行われる、神奈川文化賞、神奈川文化賞未来賞および神奈川スポーツ賞受賞者の表彰と神奈川フィルハーモニー管弦楽団による祝賀演奏。この式典に2,000名の皆さまを無料でご招待します。

2016年11月3日(木・祝) 14:30 〈大ホール〉
申込み締切10/3(月)
往復はがき(消印有効)またはインターネット
※お一人につき2名様まで
※応募者多数の場合は抽選 ※未就学児入場不可
【第65回文化賞・スポーツ賞贈呈式】で検索
神奈川文化課 045-210-3808

2016年 アートダンスカナガワ No.11 「闇の向こうの、その光の果て」

神奈川県民ホール



ゆるぎない大樹の葉ずれはとこしえの声
立ちどまり耳を澄ませてごらん
空を見あげ風に吹かれてごらん
そして前へひとり歩いていこう
モダンダンスとクラシックバレエの融合で
創り上げるこの舞台。今回はバレエ界の
ベテラン篠原聖一の演出・振付でお届け
します。ぜひご鑑賞ください。

2016年10月8日(土) 16:00 〈大ホール〉
指定席 6000円
自由席 5000円(1・2階)・3000円(3階)

KAAT竹本駒之助公演 第七弾 『摂州合邦辻』下の巻ノ切「合邦内の段」

KAAT 神奈川芸術劇場



人形浄瑠璃文楽や歌舞伎でおなじみの「義太夫節」という音楽を、女性によって演奏する女流義太夫。太夫の語りと三味線だけで、役を演じわけ、物語を展開する「素浄瑠璃」という上演スタイルでお届けします。義太夫節の本来の魅力が伝わる駒之助の語りの芸の力、ぜひ体感してください。

2016年9月22日(木・祝)・23日(金) 15:00
(大スタジアム)
全席自由 一般4000円 高校生以下1000円
U24(24歳以下)2000円
※事前講座あり。詳細はHPをご確認ください。

知れば、
知るほど、
好きになる

音楽の小箱

「義太夫節」という音楽

「浄瑠璃^{じょうるり}」という文学・音楽は、室町時代に成立しましたが、三味線の伝来以後、伴奏楽器が琵琶から三味線に交替した段階で、近世期・江戸時代の文学・音楽となりました。人形の操作をみせた芸能「人形戯^{にんぎょうまき}」の集団と、「浄瑠璃」が結びついて、新しい演劇「人形浄瑠璃」という人形芝居が成立したのは江戸時代の初め・慶長年間と考えられています。

「義太夫節」とは、人形浄瑠璃の歴史の中では、最後に成立した流派で、初代竹本義太夫(のちに竹本筑後掾)が大坂道頓堀で初めて興行した時(貞享初め・1684-85)をその創始時期としています。

江戸時代に行われた三味線音楽は数多くありますが、中でも義太夫節が

誇る随一の特徴は、その詞章本・台本・脚本である「浄瑠璃本^{じょうるりほん}」を日本全国に流通させ、伝本を今に残していることです。いわば義太夫節だけが、江戸時代の日本・六十六か国にまたがる、くユニバーサルな音楽だったのです。

それほどの隆盛を誇った「義太夫節」も、残念なことに近代の東京において興行の拠点を持たなかったことが影響するのでしょうか、社会的な認知度の



竹本駒之助 鶴澤津賀寿 KAAT公演より(2016年)
photo: 西野正将

点で歌舞伎や能楽に後れを取ります。

竹本駒之助さん(1999年女流義太夫の人間国宝に認定。2012年神奈川文化賞受賞)は秦野市在住の神奈川県民ですが、ご出身は兵庫県淡路島で、戦後間もなく大阪へ修行に出た方です。大阪という経済都市の、日本近代史の中での退潮に伴い、それに支えられていた義太夫節の演奏者たち(男女問わず)の少なくない人々が東京に拠点を移しました。

KAAT神奈川芸術劇場では2013年から「KAAT竹本駒之助公演」を主催し、駒之助・鶴澤津賀寿両師の演奏を通して「義太夫節」という音楽、日本の伝統芸術の紹介に努めています。

文: 神津武男(早稲田大学演劇博物館 招聘研究員)

楽器ミュージアム

ヴァイオリンと名器

豊かで華やかな音色のヴァイオリンは楽器のスーパースター。

あの美しい響きは、4本の弦(上からミ-ラ-レ-ソ)を弓で擦って振動させ、その振動が弦を支える駒を通してボディに共鳴して生まれます。ボディは湾曲した表板と裏板を側板でつないだ優美な曲線が特徴的で、その内部は空洞で、振動をボディ全体に伝えて響きを豊かにする小さな棒(魂柱)が立っています。

現存する最古のヴァイオリンは、1565年頃にアンドレア・アマティが製作しました。アンドレアの息子ニコロやその弟子のストラディヴァリ、ガールネリ一族が18世紀半ばまで

に作ったヴァイオリンは、本誌巻頭のファウストをはじめ世界的な名手たちにより現代まで奏でられ、これらによって「名器」はないといわれています。

19世紀、演奏の場が宮廷の一室から大きなホールに変わると、ヴァイオリンは音量や華やかさをより強く求められ、駒や指板の位置を高くするなど弦の張力を増すよう改造されました。20世紀には、羊腸で作ったガット弦から力強い響きのスチール弦に代わっていきます。「名器」はこうした変化にも対応できるものでもあったのです。

近年、作曲当時と同様の楽器、奏法で演奏するという機運が高まり、ガット弦の柔らかい響きも再評価さ

れています。誕生から5世紀を経てもなおヴァイオリンの表現の幅は広がり続けています。

表板の二つのf字孔は共鳴の機能を持ち、fの横棒の溝が駒や魂柱の位置の目印となります





イラスト：遠藤裕喜奈

フランツ・シューベルト 「美しき水車小屋の娘」

フランツ・シューベルトは「歌曲の王」といわれ、わずか31年の生涯で600曲以上の名作歌曲を生み出しました。中でも『美しき水車小屋の娘』、『冬の旅』、『白鳥の歌』は「3大歌曲集」と呼ばれています。

最初に作られた『美しき水車小屋の娘』は、1823年、シューベルト26歳の時の作品。修行の旅に出た粉引き職人の若者が、水車小屋の娘に出会い恋に落ちるが、狩人の若者の出現により失恋し、小川に身を投げるという、ドイツ・ロマン派らしい青春の物語です。同時代のドイツ・ロマン派の詩人、ヴィルヘルム・ミュラーの『旅するワルトホルン吹き』の遺稿集からの77篇の詩』を元としています。

この傑作には不思議な特別版があります。全20曲の中から3曲のみを取り出し移調したもので、若者の娘への溢れる熱い想いを歌う「第7曲 いらだち」、若者の挨拶に顔を隠す娘へのとまどいと不安の「第8曲 朝の挨拶」、川辺に咲く青い花は娘の瞳の色、その花に浮かぶ朝露は若者の涙、という「第9曲 粉引き職人の花」の構成です。

この版は、一人の女性に捧げられたものといわれています。その女性のカロリーナ・エスタハージ伯爵令嬢。シューベルトは、1818年と1824年にエスタハージ伯爵家で音楽教師を務めます。

シューベルトのカロリーナ嬢への想いは、友人たちの間では広く知られていました。友人で作家のパウエルンフェルトは「カロリーナ嬢はシューベルトにとってのミューズ」だったと回想しています。有名なシューベルトティアード*を描いた絵の中で、部屋の中央に飾られた肖像画の女性こそカロリーナ嬢その人です。伯爵令嬢と一介の作曲家では、当時の社会に於いては告白すらも許されぬ身分違いだったのです。シューベルトは、1台のピアノを二人が並んで演奏する「四手ピアノのための幻想曲へ短調」をカロリーナ嬢に献呈しています。

フランツ・ペーター・シューベルト Franz Peter Schubert (1797~1828) オーストリアの作曲家。特に歌曲の分野で数多くの傑作を残し、「歌曲の王」、「ドイツ歌曲の創始者」と呼ばれる。代表作は「交響曲第7番 未完成」「弦楽四重奏曲第14番 死と乙女」「歌曲 野ばら」など。

*シューベルトティアード：シューベルトの友人たちがシューベルトの作品を聞くために開いたサロンコンサート。友人の画家シュヴィントによる絵が残されている。

山本理頭の街は舞台だ

住所:神奈川県横浜市中区野毛町、花咲町、宮川町、桜木町、日ノ出町
交通:JR根岸線「桜木町」駅から徒歩5分
京急「日ノ出町」駅から徒歩5分
横浜市営バス、江の電バス「野毛大通り」下車

取材協力:野毛地区街づくり会



提供:野毛大道芸実行委員会



提供:野毛未来研究所

右:野毛の新たな風物詩「野毛ハロウィン」
今年は10月28日(金)・29日(土)開催
左:野毛の名を全国に轟かせる「野毛大道芸」



ノスタルジックでかえって新鮮。野毛の街並

野毛の姿は住民が決める。



終戦後の野毛

企画・監修:山本理頭(建築家)



©Jake Waltersm

1945年生まれ。71年、東京藝術大学大学院美術研究科建築専攻修了。東京大学生産技術研究所原研究室主任。73年株式会社山本理頭設計工場を設立。2007年、横浜国立大学大学院教授に就任(11年)。11年、横浜国立大学大学院客員教授に就任(13年)。

街は生きている。刻一刻と、その表情を変える。終戦直後、「ヤミ市」として栄えた野毛は、日本の復興と反比例するように商業的地盤沈下を続ける。そして残ったのが、どこか懐かしく狼狽な飲食街だ。地元住民は誇りを持って「本物の場末」と呼ぶ。

1983年、横浜市「みなとみらい21計画」が着工。すぐ隣に一大商業地区が生まれることとなる。危機感を募らせた住民は、「野毛地区街づくり」を考える会を結成。横浜市、国鉄(現JR)、東急との協議を重ねると共に、個性ある街には文化が不可欠と、街おこしイベントを独自に企画する。今年で41回を迎え、いまや横浜最大の動員数を誇る「野毛大道芸」もその一つだ。野毛は数少ない住民中心の街づくりの成功例なのである。

野毛に今変化が起きている。おやじだけではなく、若者や女性客が増え、週末には県外や海外からの観光客が街に溢れるのだ。街の姿は住民が決める。常に変化する街に完成形はない。行政が「こつしなさい」と全体計画を押し付けることなどできないのである。自ら行つべきことを自らが決める。それが住民自治である。野毛には本物の住民自治がある。「本物の場末」住民が胸を張るのはその自負なのである。(談)



かながわ
芸 ● 能
歳時記

地元の女性たちの熱意により見事復活

菊名の飴屋踊り

(三浦市南下浦町／白山神社下広場／10月)



大人が演じる「子守」

*手踊り：歌舞伎舞踊で、曲全体の物語進行や劇的内容から離れて踊る部分。
*段落：歌舞伎や狂言などを取り入れたセリフもあるもの。

住所：神奈川県三浦市南下浦町菊名162
交通：京急三浦海岸駅下車 バス2番線より駒崎行き
又は、駒崎経由三崎行きで「白山神社前」下車 徒歩5分
日時：毎年10月23日 19:00～21:00 (雨天順延)
お問合せ：菊名あめや踊り保存会046-888-0758

WEB
+α!

菊名の飴屋踊りは、三浦市南下浦町菊名の白山神社例祭で、毎年10月23日に神社下広場に舞台が作られ奉納されます。江戸時代末期、関東の村々を巡り行商した飴売りが街頭で客寄せのために歌舞を演じたのが始まりとされ、歌舞伎末期の演芸が農漁村に流入し形成されたといわれていますが、詳しいことは分かっていません。菊名には「飴与三」という飴売りが伝えたとされています。

内容は手踊りの「白松粉屋」「新川」、段物の「笠松峠」「五段目／忠臣蔵」などがあります。昭和30年に神奈川県無形文化財(後に無形民俗文化財)に指定されましたが、平成元年から演者(当時は男性のみ)の高齢化と減少のために上演が中断されました。その後平成20年に、地元の女性たちの熱意により見事復活し、現在では女性や子供たちも参加し毎年奉納されています。おひねりが投げ込まれるなど、かつての村芝居の風情が楽しめます。監修：神奈川県民俗芸能保存協会会長 石井一躬 協力：菊名あめや踊り保存会 写真提供：菊池恵(菊名あめや踊り保存会事務局)

more! カナガワ

神奈川県立近代美術館 葉山 陽光礼讚 谷川晃一・宮迫千鶴展

1960年代から画家、美術評論家として活躍している谷川晃一(1938-)と、妻で画家、エッセイストとして知られる宮迫千鶴(1947-2008)の二人展。伊豆高原のアトリエでの日々の暮らしや自然へのまなざし、ネイティブな文化への憧れなどをテーマにした明るい色彩に満ちた絵画やオブジェ等、選りすぐったこれまでの作品から谷川晃一による最新作まで、海に面した陽光あふれる葉山館で紹介。2016年10月22日(土)～2017年1月15日(日)(祝日を除く月曜と年末年始休館) www.moma.pref.kanagawa.jp TEL.046-875-2800

神奈川フィルハーモニー管弦楽団

特別演奏会 名曲への案内 コンチェルト&Concerto&Konzert!!!
2016年10月28日(金) 19:00 ミューザ川崎シンフォニーホール
指揮：現田茂夫(名誉指揮者) 共演：ウェールズ弦楽四重奏団
シェーンベルク：弦楽四重奏と管弦楽のための協奏曲
バルトーク：管弦楽のための協奏曲 他
S 6000円 A 4500円 B 3000円 (各種割引あり)
www.kanaphil.or.jp TEL.045-226-5107

神奈川近代文学館

特別展「安岡章太郎展—〈私〉から〈歴史〉へ」

安岡章太郎(1920-2013)は、1953年「陰気な愉しみ」「悪い仲間」で芥川賞を受賞、〈第三の新人〉の旗手として活躍した作家です。「海辺の光景」「流離譚」などの小説や、ユーモアあふれるエッセイでも読者を魅了しました。本展は当館の〈安岡章太郎文庫〉の資料を中心に、近代社会における抑圧や束縛を嫌い、「劣等生」「ナメケモノ」を自称した小説家の実像とその作品の魅力を紹介。2016年10月1日(土)～11月27日(日)(10/10除く月曜休館) 一般600円 他 www.kanabun.or.jp TEL.045-622-6666

神奈川県文化課

第2回全国高等学校日本大通りストリートダンスバトル

2016年11月6日(日)9:00～15:30(午前：関東大会予選/午後：全国大会) 日本大通り特設ステージ(横浜市中央区)
(雨天時：クイーンズスクエア横浜1階・クイーンズサークル)
全国の高校生たちによるコンテスト形式のストリートダンス大会 実行委員会事務局 0466-60-7550
http://magcul.net/event/streetdancebattle2016

My Roots My Favorites

宮本益光
(オペラ歌手)



神奈川県民ホール・オペラ・シリーズ 2015「金閣寺」主役 溝口
©ヒダキトモコ

そのまま自分の可能性になる。

幹が太ければ、枝葉も増えて、

WEB
+α!

音楽との出会いは、小学4年生の時です。新しい音楽の先生が転任してこれ、鼓笛隊を作ることになった。それに母親が勝手に申し込んでしまったんです。その後3年間鼓笛隊を続けるうちに、学校全体が「音楽の学校」に変わってしまった。卒業文集で6年生のほとんどが、「将来音楽の仕事につきたい」と書いてしまう。それ程、魅力的な先生でした。こんな人間になりたいと思った。その時に音楽の先生になろうと決意しました。

中学校では吹奏楽部に入り、高校進学後は地元の大学の教育学部を志望していました。歌も楽器もできる先生になりたいと考えて合唱部に入り、声楽の個人レッスンも受けることにしたのですが、その先生が「音楽で日本一の大学は東京藝大」とおっしゃる。よし、それなら一番の教育を受けて、素晴らしい教員になってやる、と藝大を目指しました。

藝大に入っても目標は教員ですから、仲間が留学とかの話をしていても、まったく興味がなかった。

博士課程に進んだ頃、指揮の若杉弘先生が特別講

師に着任されました。ラッキーなことに先生が私のことを気にかけて「僕が君を有名にする」とおっしゃって、世界をどんどん広げてくださいました。2年、3年先まで仕事が入るようになり、気が付いたら歌手になっていました。若杉先生に出会わなかったら、教員になっていたと思います。

私にとって教員になりたいという思いが太い幹で、その枝葉に実った果実の一つが「オペラ」だったわけです。教員という夢は叶わなかったけど、オペラ歌手が不味い果実かということ、そんなことはない。幹が太くて栄養がいっぱいあれば、枝葉も増えて、そのまま自分の可能性になるのではないのでしょうか。 (談)

宮本益光(バリトン) Masumitsu Miyamoto, Baritone

愛媛県出身。東京藝術大学卒業、同大学院博士課程修了。東京二期会「ドン・ジョヴァンニ」タイトルロールで一躍注目を集め、以後、数多くのオペラに出演。2015年神奈川県民ホール・オペラ・シリーズ「金閣寺」溝口の演唱で非常に高い評価を得た。神奈川県民ホールでは16年12月に『ファンタスティック・ガラコンサート』、17年3月に「魔笛」ババゲーノで出演予定。聖徳大学准教授。二期会会員。

www.mas-mits.wixsite.com/classical-music-jp

REVIEW

庄司紗矢香 無伴奏ヴァイオリン・リサイタル

2016年5月29日(日) 神奈川県立音楽堂

出演: 庄司紗矢香(ヴァイオリン)

[プログラム]

J.S.バッハ: 幻想曲とフーガ ト短調 BWV542 (ジャン=フレデリック・ヌーブルジェ編)

バルトーク: 無伴奏ヴァイオリン・ソナタ Sz.117

細川俊夫: ヴァイオリン独奏のための「エクスタシス」(脱自) (2016) 《委嘱作品・日本初演》

J.S.バッハ: 無伴奏ヴァイオリン・パルティータ 第2番 二短調 BWV1004



「intimate(親密)な空間で初めての無伴奏リサイタルを行いたい」という、庄司紗矢香本人の強い希望により実現した演奏会。北海道から始まった8か所を巡るツアーの3日目が神奈川県立音楽堂でした。曲目は、バッハ、バルトーク、細川俊夫の日本初演委嘱新作。リハーサルでは細川と新作について話し、「難しい」とこぼす一面もありました。しかし、舞台上立つと、1曲1曲に込める気迫、高い集中力、親密な空間に響く庄司の息遣いに、客席だけでなく、舞台袖にいるスタッフまでもが「庄司紗矢香の世界」にぐっと引き込まれてしまいました。全ての力を使い果たし舞台を去った後、楽屋に続く廊下を歩きつつ、「またここでリサイタルをやりたい」と笑顔で話してくださいました。多くの人々の心に強く残る演奏会でした。

お客様の声

過去2度ほど、他の日本人の演奏者で無伴奏ヴァイオリンリサイタルを経験したが、庄司さんの演奏は重い雰囲気もなく、心にしみるすばらしいものだった。(50代男性)

庄司さんのコンサートは日程の都合がぎり聴きにくかっています。とくに20世紀の音楽家がお得意なのではと感じているのですが、バッハ、バルトーク、いずれもエネルギーがあつてすばらしかったです。ヴァイオリンで多声を弾くことがどれほど難しいことか、想像するのみですが、美しい和声でした。ありがとうございました。(30代女性)

公益財団法人神奈川芸術文化財団をご支援いただいている方々

公益財団法人神奈川芸術文化財団では、賛助会員制度を始めとしたさまざまなご支援の仕組みを通じて、広く皆さまからご寄附・お力添えをいただいております。

公益財団法人神奈川芸術文化財団 賛助会員

法人賛助会員 株式会社アクトエンジニアリング/株式会社浅岡装飾/アサヒビール株式会社/アズビル株式会社/学校法人岩崎学園/株式会社ヴォートル/株式会社エス・シー・アライアンス株式会社NHKアート/株式会社勝利庵/公益財団法人神奈川興結核予防会/神奈川県信用保証協会/株式会社神奈川孔文社/株式会社神奈川保健事業社/神谷コーポレーション株式会社カヤバシステムマシナリー株式会社/川本工業株式会社/かをり商事株式会社/株式会社共栄社/株式会社KSP/株式会社合同通信/コトブキシーティング株式会社株式会社サンナイオートメーション/株式会社シグマコミュニケーションズ/株式会社ジェイコムイースト横浜テレビ局/株式会社清光社/株式会社ソニー・ミュージックコミュニケーションズ月島機械株式会社/株式会社テレビ神奈川/東工株式会社/ナイス株式会社/株式会社日建設計/日産自動車株式会社/日生商工株式会社/日総ブレイン株式会社/株式会社野毛印刷社パナソニックESエンジニアリング株式会社/平安堂薬局/株式会社ホテル、ニューグランド/一般社団法人本牧関連産業振興協会/丸茂電機株式会社/三沢電機株式会社森平舞台機構株式会社/ヤマハサウンドシステム株式会社/株式会社有隣堂/株式会社豊商會/株式会社ユニコーン/株式会社横浜アーチスト/横浜新都市センター株式会社横浜信用金庫/弁護士法人横浜/パートナー法律事務所/横浜ビルシステム株式会社/株式会社ワイイーソリューションズ(匿名:3社)

永年個人賛助会員 江田眞子/川村恒明 **個人賛助会員** 岩間良孝/岡田博子/長田大徳/黒瀬博晴/橋本尚子(匿名:1名)

協賛・協力

能舞台協賛 ナイス株式会社

協力 神奈川総合設備株式会社/神奈川ヨト自動車株式会社/崎陽軒/株式会社東芝/株式会社野毛印刷社/野村證券株式会社横浜支店/株式会社富士住建/三菱地所株式会社

(敬称略 2016年8月15日現在)

ご寄附・ご協賛・ご協力のお申込み・お問合せ: 本部経営企画課 045-633-3760 www.kanagawa-arts.or.jp/support/

劇場の達人

「観たい公演をみのがさないために」

え・ユキナ



* Kame 先行予約がない公演もあります。

Kame かながわメンバーズ 登録無料!
KANAGAWA members チケットの先行予約が可能
登録は WEB で! www.kanagawa-arts.or.jp/kame

神奈川芸術プレスはここに 있습니다。
神奈川県内の主な公共施設の情報コーナー、首都圏の公共ホール・公立図書館・博物館・書店・銀行等に配架しております。
WEB でも読めます! www.artspress.jp

MAGCUL 神奈川県発、文化発信ポータルサイト
MAGCUL マグカル ドット ネット
MAGCUL.NET
MAGCUL PROJECT HAWAII

神奈川県民ホール・iichiko総合文化センター・東京二期会・神奈川フィルハーモニー管弦楽団 共同制作公演
平成28年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業 (共同制作支援事業) 文化庁

神奈川県民ホール オペラシリーズ 2017

W.A.モーツァルト作曲 全2幕 ドイツ語上演 日本語字幕付・セリフ日本語

魔笛 Die Zauberflöte

指揮 川瀬賢太郎 演出・装置・照明・衣裳 勅使川原三郎

3/18 3/19 各日 14:00 開演

2017年 3月18日(土) 19日(日)

神奈川県民ホール 大ホール

3/18-19(両日)

ダンス: 東京バレエ団
合唱: 二期会合唱団
管弦楽: 神奈川フィルハーモニー管弦楽団
※やむを得ない事情により出演者等が変更になる場合があります。
※未成年者入場不可(有料託児サービスあり・要予約)

全席指定 S13,000円(Sペア 24,000円) A10,000円 B7,000円 C6,000円 D4,000円 E3,000円 学生(24歳以下・枚数限定) 2,000円

かながわメンバーズKame チケット 先行発売 9/17(土) 一般発売 10/1(土)

チケット かながわ 0570-015-415 (10:00-18:00)
<http://www.kanagawa-arts.or.jp/tc/>

Vol.132 (通巻136号) 2016年9月15日発行(寄附月15日発行) TEL045-663-3711 FAX045-663-3714 発行:公益財団法人神奈川芸術文化財団 企画:制作:公益財団法人神奈川芸術文化財団 / MOJOWORK【禁無断転載・複写】無料配布

編集後記

「今明かされる衝撃の事実! 劇場の達人さんも会員だった!!(Kame)も6歳。おかげで会員数数万超。「カメなのに速い」というギャグも6年越しでやっと使えました(感涙)。(井) いよいよ「芸術の秋」到来。Kanagawa ARTS PRESSもいつにもまして内容充実です。そして、わたくしは「食欲の秋」がいつにもまして絶好調です。(倉)